

第1回スタートアップワーキンググループ報告書

NewsPicks Studios 金泉俊輔

目的

「大きなことから考えていこう！その上での課題感を！」

スタートアップWGでは、5年・10年先を見据えた議論→実装を目指す。
一方、スタートアップは各ステイクホルダーから短期成長を求められる。
その矛盾の中で、解を出していく。

議論テーマ

- ① デジタルライフラインを社会実装する上でのスタートアップ目線で見えている課題
- ② 上記の機能を果たすために、スタートアップが国・大企業に求める取組
- ③ 上記の機能を果たすために、スタートアップが必要とする支援策・インセンティブ

委員コメント

全般的課題

- ・例えば自動運転車にしても、モビリティが走るだけでなく、サービスまで一貫した社会のリデザインが必要。
- ・各社の競争領域に立ち入るような協調領域が必要であり、そのためには、何を重点的に取り組むのかビジョン共有が重要。早い段階で関係者の利害を調整し、既存のキャッシュポイントをうまくスイッチしていくことが重要。

大企業への期待

- ・プロトタイプへの人員・技術提供や、サービスの実装まで協力して頂きたい。
- ・大規模なデータ連携基盤整備など、長期目線で投資を行うことで、サービスローンチ後の更なる向上に繋がる。
- ・大企業が持っているデータを安全に開示できる仕組みが必要。

国への支援策等の期待

- ・ステークホルダーを横断する調整をお願いしたい。
- ・参画する企業が大企業のグループ会社だけで完結しないよう留意する必要。
大企業と比して相対的に弱い知的財産面での支援も重要。
- ・地域コミュニティの形成においては国も積極的に参入してほしい。

コミュニティ形成・コンテスト

- ・エンジニアは新しい技術を使った取組に非常に関心。コミュニティの情報発信を通じて、デジタルインフラを作る側に回るエンジニアを呼び込めるのでは。
- ・ITシステムは安い・早い・便利という観点で効率を追い求める仕組みも重要。コンテストを開催してアルゴリズム最適化を行う際には、出来るだけ実際に近く、小さい要件でやることが重要。大企業は問題定義に長けるので、どれが良いものなのか、という評価関数の設計を行って頂きたい。コンテストも単発ではなく、継続する仕組みが重要
- ・技術とビジネスをまぜてコンテストを行うことは避けた方が良い。参加層がまるで違うので、参加者がいなくなる。

アジャイル開発

- ・物理的な施設やインフラとシステムを同時に導入するのではなく、事前に仮想空間上でインフラのシミュレーション環境を導入することでエンジニアが開発する環境が必要。
- ・大量の失敗から成功事例を作ることが重要。失敗したときのレピュテーションリスクを担保する枠組みが必要。

次回へ向けて

仮想空間上インフラシミュレーション、地域コミュニティ形成など、先を見据えた論点の端緒は見えた。第2回スタートアップWGに向けて、より視座を高め、実装を目指した提案をしていく。

NewsPicksでは、本会議及び各WGからキーパーソンのインタビュー記事「未来予測2024(仮題)」等を、2023→2024にかけて企画検討予定。